

「国際保健分野の人材育成のあり方に関する研究」

地球規模保健課題推進研究事業

【主任研究者】 中村安秀(大阪大学大学院人間科学研究科)

【分担研究者】 石川尚子(国立国際医療センター国際医療協力局)

兵井伸行(国立保健医療科学院人材育成部)

松山章子(長崎大学国際連携研究戦略本部)

【研究機関】 2008年度～2009年度

【目的と概要】

- (1)諸外国の大学院における、国際保健分野における人材育成プログラムの分析、及び卒業生の進路に関する追跡調査を実施、(2)日本国内の複数の教育研究機関から構成されるコンソーシアムによる人材育成プログラムのモデル開発を行う、(3)開発されたモデルを施行し、その成果の分析を行う

【研究成果】

- 欧米では同様のモデルがあるが、日本の国際保健分野では初めての試みであり、人材育成に関して、今後の問題点や解決すべき課題を明らかにすることができた。人材育成プログラムの成果は、NGOやボランティアで国際保健医療協力を行なう専門職や市民にも還元できる性質のものとする

【今後の課題】

- 国内でも保健医療人材の不足が指摘される中、国際保健医療協力と地域医療の双方にとって貴重な人材の確保を図る方法を模索すべき
- 国連機関やJICAに限らず、広く活動の場所を今後は視野にいれることが必要
- 現場経験を重視する国際保健分野において、途上国経験の場の提供を行う
- 高等教育に関するコンソーシアム構想が急速に展開されている中、国際保健コンソーシアムという方向性のさらなる発展が望まれる

国際保健コンソーシアム・モデル図

【背景】

- 一機関では実現できないことも、国際保健関連団体全体で取り組めば世界と相対することができる
- 医療系分野に限らず、人文社会系や市民社会との協同で、豊かな国際保健の実現できる
- アジア諸国の急激な発展を視野に入れて、コンソーシアムの成果を世界に還元していく

【実践】

- 2009年1月 国際保健コンソーシアム設立総会開催、大学・研究機関など14機関が加盟
- 人材の発掘、登録、人材を必要とする機関や国際会議への派遣・マッチングシステムを構築した
- 中級者対象の研修の実施、採用情報の提供を行った

